

## 倉ヶ入の力だめし石

細布の倉ヶ入に力だめし石というのがあります。江戸幕府時代から明治・大正・昭和の時代を通じて、何百年という長い間、若者たちが集って、この石をかつぎ上げて打ち興じたといわれています。重さは二十七貫ほどあって仲々の力のある人でも肩まで上げることは、容易でないそうです。近頃は若者が余り興味がな  
いのか、忘れられたようになってしまいました。明治時代までは祭日や休日に集って、よく力だめしをやったものだといわれています。倉ヶ入のKさんの家では若者たちに賞金を出したりご馳走などをして、かつぎ上げた人を待遇したりしました。たいていの若者は膝の所まで上げるのが精一ぱいで、胸まで上げたものは明治以来、たった一人だといわれています。石は昔も今もKさんの庭にだまっておさまっていますが、石が口をきくとしたらいろいろのことを話してくれると思います。